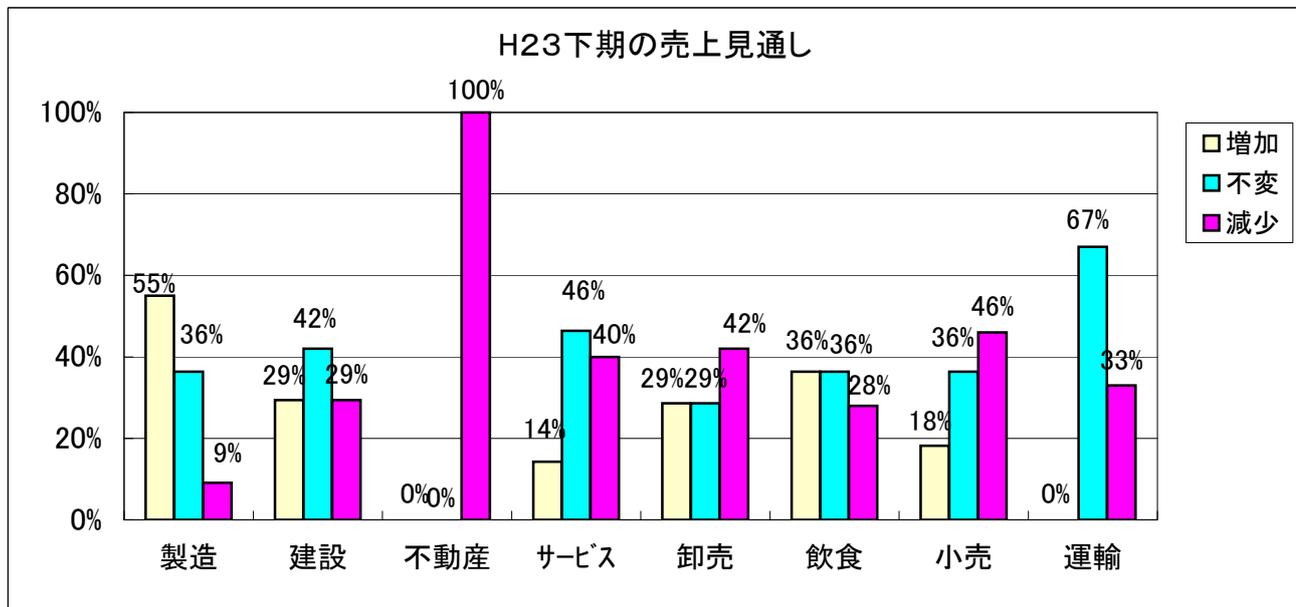


調査2 平成23年1月～6月を水準とした平成23年7月～12月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに前頁で表示してあるのでここでは省略する。

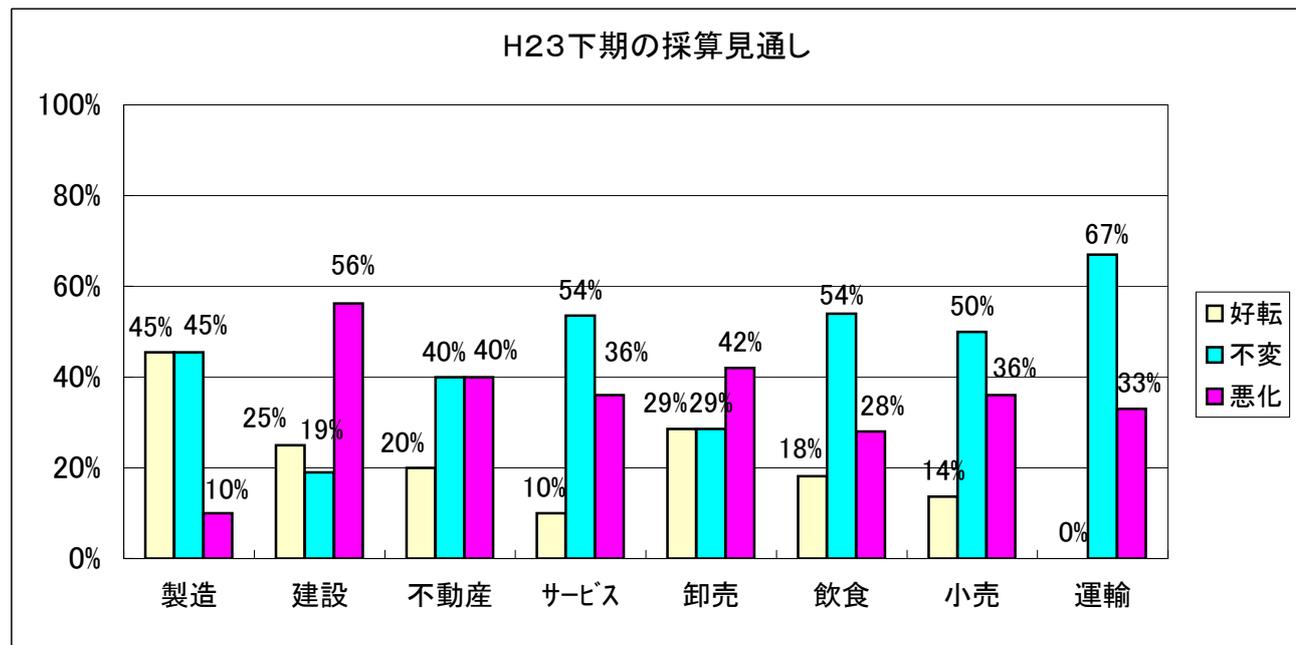
①売上見通し

業種別でみると売上が「増加」する見通しと回答したのは、製造業が55%で一番多く、次いで飲食業(36%)で共に「減少」より上回っている。一方、「減少」の見通しが多い業種は、不動産業(100%)、次いで小売業(46%)、卸売業(42%)となっており、厳しい見通しとなっている。



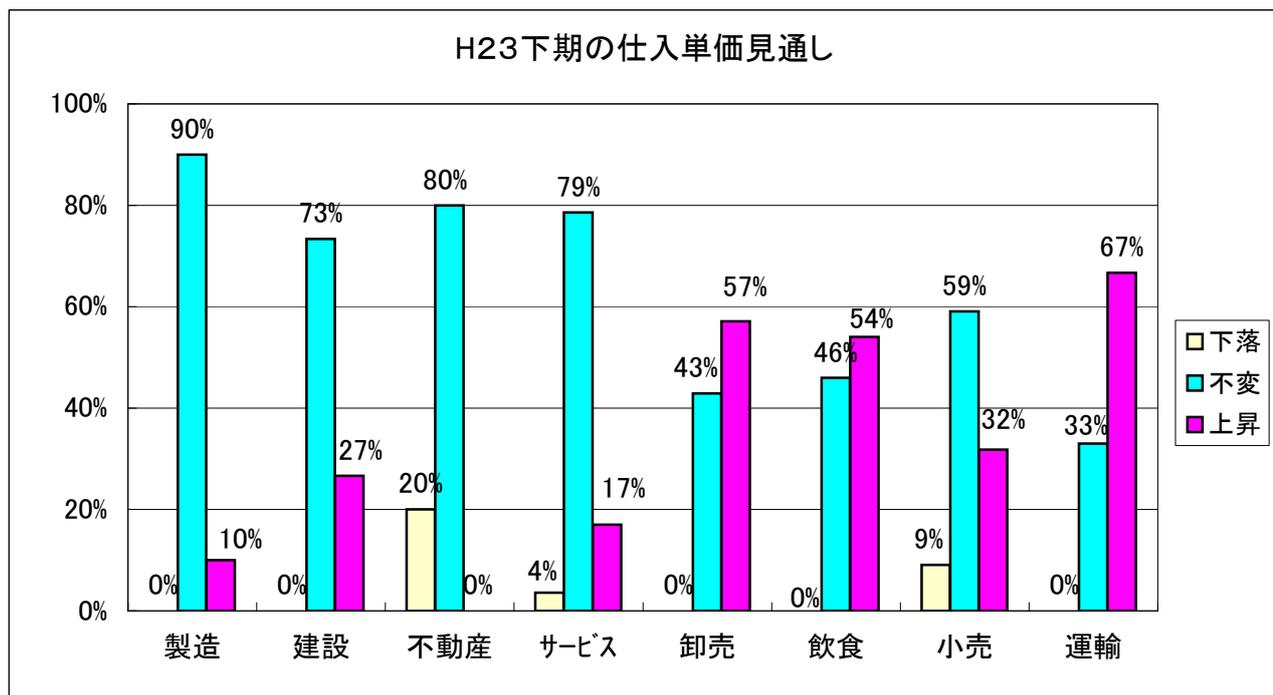
②採算見通し

「好転」と回答した業種では、製造業(45%)が唯一「悪化」を上回っていた。それ以外の業種は「悪化」傾向が強く、特に建設業(56%)、卸売業(42%)が目立っている。



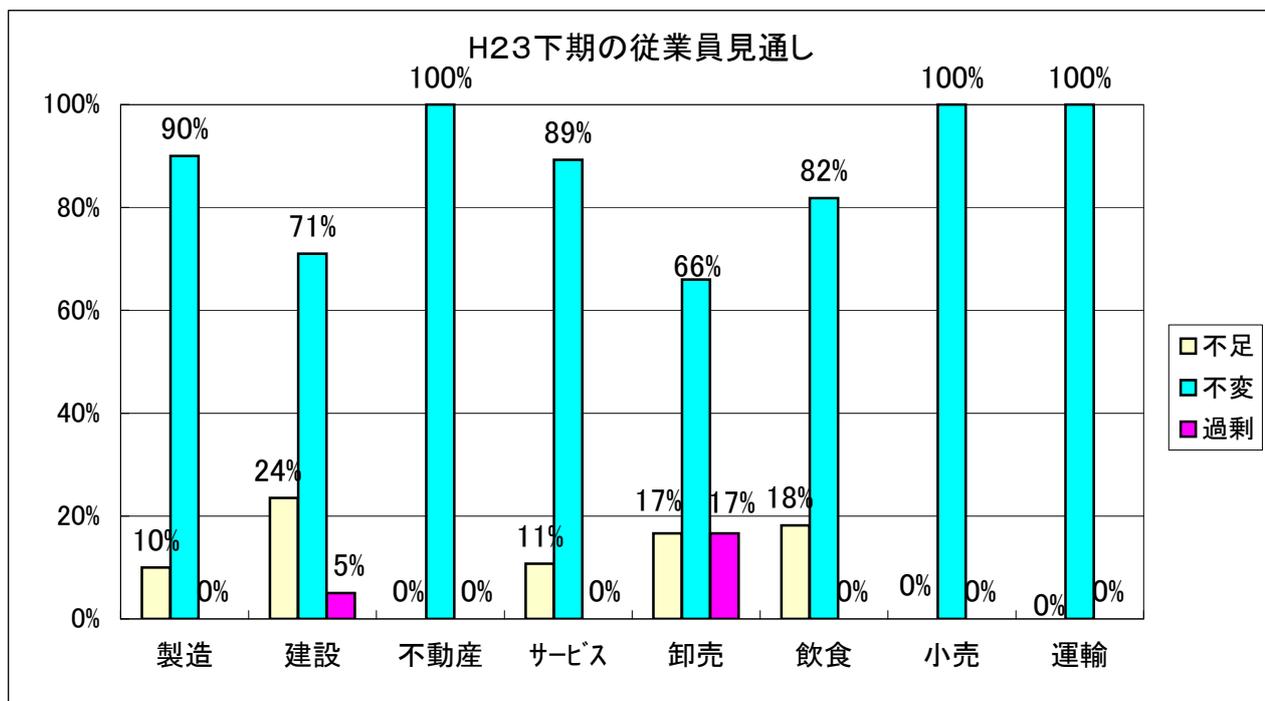
③仕入単価の見通し

仕入単価については、全体で見ると63%が「不変」と回答し、「上昇」の見通しが多い業種は、運輸業(67%)が一番多く、卸売業(57%)、飲食業(54%)と続いている。



④従業員の見通し

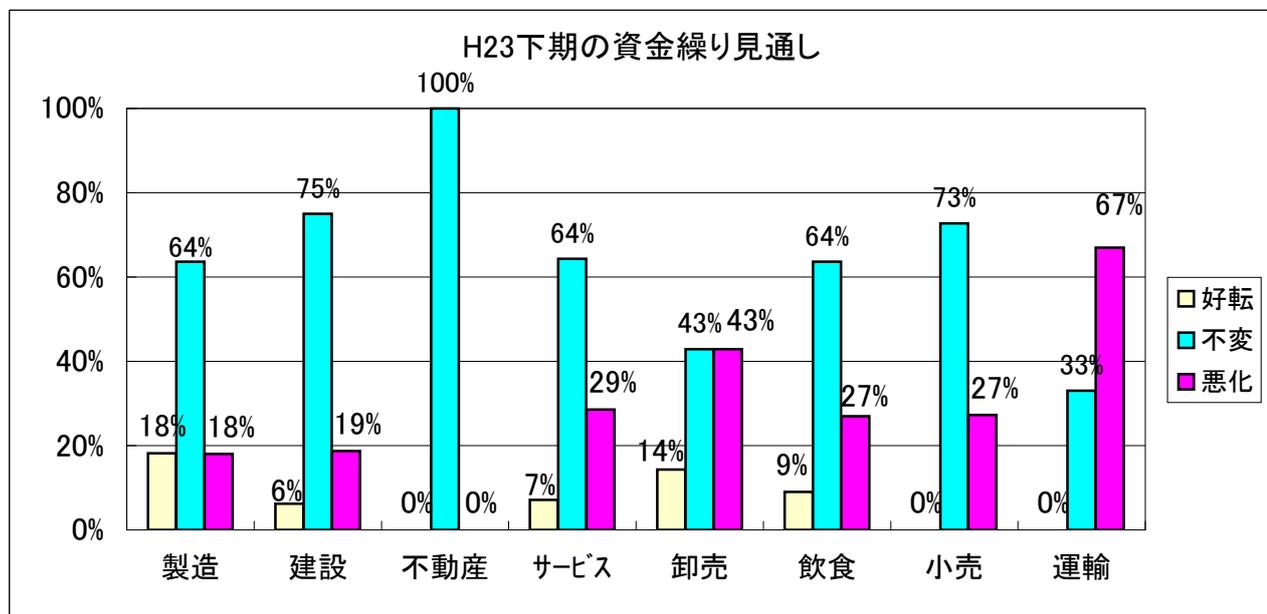
全体で見ると87%が「不変」と回答している。そのなかで、「不足」が顕著なのが建設業(24%)であった。



⑤業界の景気動向見通しについて
P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

資金繰りについては、「不変」が全体で64%で、「悪化」の見通しが多かったのは運輸業(67%)、卸売業(43%)であった。「好転」の見通しは若干ではあるが製造業で18%あった。



⑦金融機関の融資状況見通し

融資状況の見通しが「不変」と回答したのは全体で48%、「融資なし」が27%、「厳しい」が14%、「緩やか」が11%となった。前回に比べ製造業では「緩やか」が前回7%から28%と上がり改善している状況である。

